

令和6年度 山形県 英語教育改善プラン

目標

自分のことや身近なことについて、慣れ親しんだ英語を使って自分の考えや気持ちを伝え合うことができる児童の育成

○児童の言語活動の割合（授業の50%以上）（R5：88.9%⇒R6：90%）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①学習到達目標に基づく単元づくりや指導の充実が図られた。
学習到達目標の状況
設定（R4:71.5%⇒R5:86.9%）
公表（R4:27.6%⇒R5:60.8%）
把握（R4:55.3%⇒R5:76.1%）
- ②「話すこと」の評価を、パフォーマンステストにより適切に行う意識が向上した。
パフォーマンステストの実施割合
（R4:94.9%⇒R5:99.8%）
- ③音声での十分なインプットを踏まえた活動の充実が図られた。

未だ改善が必要な点

- ①言語活動を通して指導する授業づくりの意識は向上したが、引き続き質・量の充実を図る必要がある。
児童の言語活動の割合
（R4:86.8%⇒R5:88.9%）
- ②英語の学習が好きな児童の割合は増加しているが、さらに向上の余地がある。
「英語の勉強は好きだ」
（R3:70.6%⇒R5:71.4%）

2. 要因分析

- ①②③：『学校教育指導の重点』を作成し、各学校と授業づくりの重点を共有するとともに、市町村教育委員会と県教育委員会が共通理解のもと、指導・助言を行った。
- ①③：英語教育実践リーダーが重点等を踏まえた実践研究を行い、具体的な実践の成果を県内に普及した。
- ①②：研修会を開催し、学習到達目標に基づく単元づくりについて理解を深めた。
- ①：教科書に示される活動や題材を、言語活動を通じた指導に生かせるような助言や実践共有が十分でなかったと考えられる。
- ②：身近で興味・関心を高める学習活動の工夫が進んだことが向上の要因として考えられる。一方、児童の資質・能力の育成に資する活動の設定に悩む声もあり、「好き」と「分かる」の好循環を生み出すことが求められる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②：英語教育実践リーダーの育成と実践の発信
県内20名の英語教育実践リーダーを育成し、各地区の英語教育推進を図る。クラウド上で実践の発信を行い、英語担当教員全体の指導力向上を図る。本県の課題を改善するために、実践研究を地区毎のチームで行い、授業検討や実践を重ねる。
 - ①②：研修会の開催と市町村教育委員会との連携による指導・助言
県の課題を踏まえた研修会を開催し、理論等の普及を図る。さらに、市町村教育委員会の学校への指導・助言の支援等を行い、各地区の実態に即した授業改善を図る。
 - ①②：学力向上推進会議英語部会による外部有識者等との現状分析・改善の検討
大学教授や市町村教育委員会、教育事務所とともに、小中学校と通じた英語教育改善の方向性を協議し、授業改善に向けた全県への情報発信や事業推進に向けた評価・改善を行う。
- 一定の英語力を有する小学校教員の拡充
県ホームページや教員採用試験ガイダンス実施の際に英語力がある教員を求めている点について周知を図っていく。教員採用試験においては、「小学校英語教諭」の選考枠を設けるとともに、英語力のある受験者に対して加点措置を行う。（2025年度採用山形県公立学校教員選考試験における加点措置：実用英語技能検定2級以上、TOEFL iBT 65点以上、又はTOEIC（IPテスト含む）600点以上のいずれかを取得している者には10点加点）

令和6年度 山形県 英語教育改善プラン

目標

日常的・社会的な話題について、聞いたことや読んだことを基に、自分の考えや気持ち、理由などを伝え合うことができる生徒の育成

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5 : 49.2% ⇒ R6 : 50%)

○生徒の言語活動の割合 (授業の50%以上) (R5 : 69.6% ⇒ R6 : 73%) ○教員の英語使用の割合 (発話の50%以上) (R5 : 63.2% ⇒ R6 : 70%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CEFR A1相当以上の英語力を有する生徒が増加した。
生徒の英語力 (CEFR A1相当以上)
(R4:42.3%⇒R5:49.2%)
- ②学習到達目標に基づく単元づくりや指導の充実が図られた。
学習到達目標の状況
設定 (R4:100%⇒R5:100%)
公表 (R4:57.4%⇒R5:73.4%)
把握 (R4:71.3%⇒R5:78.7%)
- ③小中連携の意識が高まった。
小中連携の実施状況
(R4:64.9%⇒R5:84.0%)

未だ改善が必要な点

- ①生徒の言語活動の質・量は、引き続き改善が必要である。
生徒の言語活動の割合
(R4:69.8%⇒R5:69.6%)
- ②教員の英語使用の割合を向上させる必要がある。
教員の英語使用の割合
(R4:65.1%⇒R5:63.2%)
- ③英語の学習が好きな生徒の割合に課題が見られる。
※R5全国学力・学習状況調査
「英語の勉強は好きだ」
(R3:59.3%⇒R5:50.9%)

2. 要因分析

①②③：『学校教育指導の重点』を作成し、各学校と授業づくりの重点を共有するとともに、市町村教育委員会と県教育委員会が共通理解のもと、指導・助言を行った。

①②③：英語教育実践リーダーが重点等を踏まえた実践研究を行い、具体的な実践の成果を県内に普及した。また、授業研究会に小中学校教員が参加し、相互理解を深めた。

①②：研修会を開催し、学習到達目標に基づく単元づくりについて理解を深めた。

①③地域間の差は縮まっているが、5領域における言語活動を通じた指導の実践の共有・普及が十分でなかった。

②③教員の英語使用がもたらす効果等に着眼した指導・助言が不十分であった。

③小中連携の質的向上を図る手立てが十分でなかった。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③：英語教育実践リーダーの育成と実践の発信
県内20名の英語教育実践リーダーを育成し、各地区の英語教育推進を図る。クラウド上で実践の発信を行い、英語担当教員全体の指導力向上を図る。本県の課題を改善するために、実践研究を地区毎のチームで行い、授業検討や実践を重ねる。

①②：研修会の開催と市町村教育委員会との連携による指導・助言
県の課題を踏まえた研修会を開催し、理論等の普及を図る。さらに、市町村教育委員会の学校への指導・助言の支援等を行い、各地区の実態に即した授業改善を図る。

②①：中高教員による相互授業参観の実施
同地区の中高教員が相互に授業を公開し、協議を行うことで、各校種の学習指導要領や指導の在り方を共有し、中高を見通した指導の系統性の充実を図る。

③③：学力向上推進会議英語部会による外部有識者等との現状分析・改善の検討
大学教授や市町村教育委員会、教育事務所とともに、小中学校と通じた英語教育改善の方向性を協議し、授業改善に向けた全県への情報発信や事業推進に向けた評価・改善を行う。

令和6年度 山形県 英語教育改善プラン

目標

情報や他者の考えなどを的確に理解し、自分の言葉で適切に伝え合うことのできる生徒の育成

- CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5 : A2以上 55.1%、B1以上 17.4% ⇒R6 : A2以上 50.0%、B1以上 20.0%)
- CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合 (R5 : 82.6% ⇒R6 : 85.0%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①高校3年生のCEFR A2レベル相当以上を有すると思われる生徒の割合が増加。

(R4:48.5%⇒R5:55.1%)

②生徒の英語による言語活動時間が50%以上の割合が増加。

(英コミ I
R4:57.7%⇒R5:62.3%
論理・表現 I
R4:29.6%⇒R5:69.2%)

①スピーキングとライティングの両方のパフォーマンステストを行った学校の割合が減少した。

(R4:48.5%⇒R5:45.7%)

②授業における、英語担当教師の英語使用状況の割合が減少した。

(R4:42.9%⇒R5:40.3%)

③高校3年生のCEFR B1レベル相当以上を有すると思われる生徒の割合が増加したが、引き続き改善の余地がある。

(R4:14.5%⇒R5:17.4%)

2. 要因分析

①英語教員指導力向上事業において英語教育充実研修会を実施し、評価問題と併せて授業の改善について演習を行ったことで、生徒の授業における言語活動が増加し改善したと考えられる。

②英語教員指導力向上事業等において、研修協力校での研究成果を波及するための公開授業等を実施したことで、生徒の英語による言語活動が増加したと考えられる。

①教員対象の研修会等で、全ての科目において、生徒との「やりとり」や「発表」から書く活動につなげるという指導・助言が十分ではなかった。

②教員の英語使用がもたらす生徒の学習効果等を周知するための手立てが十分ではなかった。

③教員対象の研修会等で、五つの領域を結び付けた統合的な言語活動を通じた指導に着目した指導・助言が十分ではなかった。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③生徒の言語活動の割合増加の推進

生徒の言語活動を通して、英語力を向上させるため、県の英語教員指導力事業における研修協力校の公開授業等において、各校での情報交換等や研修会を行い、各校の取組みを共有する。

①②②中高教員による相互派遣研修の推進

同地区の中高教員が互いの授業内容を理解するとともに、中高をとおした教科指導の在り方について共有するため、中高教員相互派遣研修において、中高連携についての研究・協議を行う。

②①スピーキングとライティング両方のパフォーマンステストの推進
「英語コミュニケーション」、「論理・表現」等の全ての科目のパフォーマンステストにおいてスピーキングとライティング両方を行うため、県の英語教員指導力向上事業における研修協力校での公開授業等において、パフォーマンステストの好事例を共有する。

②教員の外部試験受験の推進

教員の英語力向上の一助となる外部試験受験を推進するため、県の英語教員指導力向上事業にて、TOEIC Listening & Reading IPテスト団体受験料の補助を行い、機会をとらえて情報提供を積極的に行う。

③英語ディベート力育成の推進

特に上位層の育成を図るため、県のグローバル化に対応した英語指導力向上事業にて、ディベートの研修を充実させる。

山形県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	55.1	50		55		55		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		20	17.4	20		25		25		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100	62	100		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		60	45.7	60		60		65		70	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	70.2	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	52.6	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		85	82.6	85		85		90		90	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		100	40.3	100		100		100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	49.2	50		53		57		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		80	69.6	73		75		78		80	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		100	97.1	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	80	73.4	75		80		83		85	
		達成状況の把握（％）	80	78.7	80		83		87		90	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	35.3	40		43		47		50	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		80	63.2	70		73		77		80	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	86.9	90		93		97		100	
		公表（％）	50	60.8	65		70		75		80	
		達成状況の把握（％）	80	76.1	80		83		87		90	